

はっしん！新青森

青森県立青森西高等学校 × 青森大学
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School AOMORI UNIVERSITY

2021年5月10日(月)
第22号 [FREE]

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR 東日本新青森駅
〔青森学術文化振興財団助成事業〕



青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく②

新青森駅が建つ「石江」探訪いかげ？



清野 耕司 教諭

新青森駅など青森市内の各所で、地域の魅力の発信と観光客の案内・もてなしに携わる県立青森西高等学校「青西おもてなし隊」が、2021年度の活動を始めました。新年度から顧問を務める清野耕司教諭は、地元の歴史の専門家です。今号から、新青森駅周辺の見所を解説していただきます。



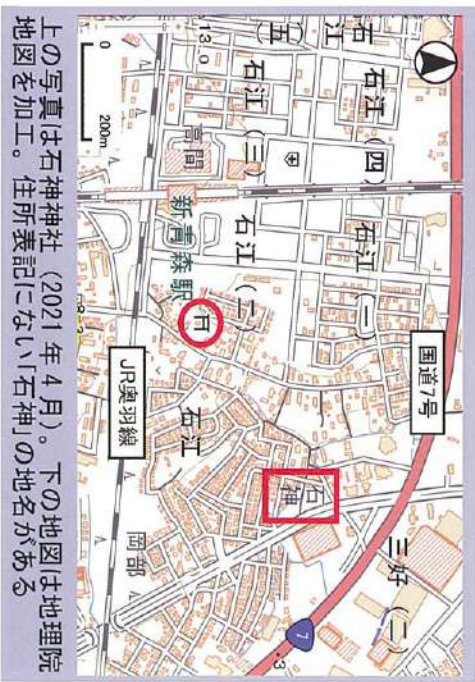
こんにちは。今年度から青西おもてなし隊を担当することになりました清野です。新青森駅を利用する観光客をもてなし、生徒とともに駅周辺の魅力を発信するお手伝いができればと考えています。よろしくお願いたします。

▼「石神村」と「江渡村」が合併

さて、新青森駅がある青森市石江は、明治時代に石神村と江渡村が合併して両方の1字ずつをとったのが、地名の由来とされています。

石神村は江戸時代以前から続くと考えられる古い土地柄で、現在の新青森駅の東北側に位置する住宅地に該当します。江渡村は、明治初年(1868年)に現在の旧国道7号にあたる新城(青森市)から古川(同)を通り青森へ抜ける新道ができた際に、人家もなく冬は旅人が凍死するほどのこの区間の窮状を見かねて移住した、青森米町の江渡茂吉が開墾した新しい村でした。

この二村が合併した石江村の地に、新青森駅があります。



この二村が合併した石江村の地に、新青森駅があります。

▼江戸の文人・菅江真澄が愛でた桜

新青森駅南側の道路を奥羽本線に沿って東方向(青森方面)へ進み、突き当たりを左へ折れるとすぐに石神神社(神明宮)が鎮座しています。江戸時代後期の文人、菅江真澄という人は、故郷の三河(愛知県)で国学や歌学を学び、歌枕(名歌の詠まれた地)を巡る旅に出てから、生涯、旅を続けました。この真澄が、寛政8年といわれますから今から約220年前、大浜(油川)から石神村を経て三内村へと桜見物に歩き、石神神社の桜も愛でています。真澄は旅の様子を細かく筆録し、文章だけでなく絵図も残してくれています。

★おもてなし隊員の声

「楽しかった。青森のことをもっと知って、しっかりと説明できるまでになりたい」(1年・篠崎利子さん)、「すぐ近くに、歴史的な場所があったことを知らなかった。桜もとてもきれいで、見られてよかった」(2年・太田美恵さん)、「話を聞いただけと実際に行って勉強するのは違う。良い体験ができた」(3年・田中碧衣さん)

「良い流れを維持したい」 青森西高・下川原校長

青森県立青森西高校に2021年4月、下川原堅蔵(しもかわら・けんそう)校長が着任しました。「良い生徒、良い仲間が集まって生まれた良い流れを維持したい」と、青西おもてなし隊の活躍に期待を寄せています。

「東北新幹線が新青森開業を迎えた2010年度は、下北半島の大間高校(大間町)に勤務していました。当時、青西おもてなし隊の顧問だったのが、この春に青西を定年退職した菅原文子校長。一緒に開業を盛り上げようと頼まれ、『海鳴り太鼓』を演奏する大間高校生を引き連れて駆けつけました」

青西おもてなし隊のメンバーは現在81人、うち31人が新1年生といい、「もともと活動が盛んな運動部に加えて、学校を代表するグラウンドとして定着しました。生徒たちが積極的に参画することで、複雑かつグローバル化した世の中を生きる力、そして社会貢献できる力を身につけています」と評価します。

むつ市に生まれ、小学校時代に始めた剣道に打ち込んで、野辺地高校-早稲田大学を経て教員の道へ。青森西高校は2度目の勤務で、着任とともに、青森県高等学校体育連盟の会長に就任しました。

「好きな言葉は『氷は方円の器にしがう』。与えられた環境をどう生かし、物事に取り組むか。学校を支え、理解してくださるPTAや地域の方々と一緒に、教職員と生徒が一体となって、青西に生まれている良い流れを止めることなく進んでいきたい」



津軽蟹夫フアンリ 新型ハイブリッド車も登場

JR 東日本盛岡支社は、青森駅と三厩駅(外ヶ浜町)を結ぶ津軽線の魅力をアピールするため、スズコットキヤラクター「津軽蟹夫フアンリ」をあしらったホームペーシ「JR津軽線の旅」(写真左)を開設するとともに、イラスト付きの駅名標を各駅に展開しています。

「津軽蟹夫」フアンリは、「津軽蟹夫」と、妻の「津軽蟹味」、長女の「津軽ミソラ」、そして長男の「津軽クリソ」の4人(匹?)です。津軽地方で親しまれているトゲクリガニをデザイン化し、津軽の旅や特産物の案内役を務めています。駅名標は青森駅を除く津軽線の全17駅に掲示中です。

なお、津軽線には2021年3月から、新型車両「GV-E400系」(写真右・津軽二股駅で撮影)が登場しました。老朽化した気動車「キハ40・48」に代わるハイブリッド型の車両です。ディーゼルエンジンで発電





三内丸山遺跡 クリの柱、保存処理終え展示

三内丸山遺跡を象徴する巨大なクリの柱が、3年にわたる保存処理を経て、縄文時遊館内の常設展示室「さんまるミュージアム」と、地下の一般収蔵庫に展示されました。石斧(せきふ)の跡が確認できるほど保存状態が良く、遺跡をつくり、暮らした人々の営みを伝えてきます(写真左)。

クリの柱は直径 70 ～ 90cm あり、「6 本柱」と呼ばれる大型掘立柱建物の柱穴 6 基のうち 4 基から出土し

ました。1 本はさんまるミュージアムに、3 本は一般収蔵庫にあります。加工の跡を確認できるよう、埋まっていた下の面が上になっています。

三内丸山遺跡は、一般的な遺跡と異なり、木製品や植物の遺物が良好な状態で残りました。当初は、遺跡の上に県営球場が建設される予定でしたが、やがて保存が決まりました。クリの柱は、遺跡の貴重さを象徴する遺物として、多くの人の心に刻まれています。

企画展 「イミテーション・ワールド」

本物と複製品 見分けるコーナー人気

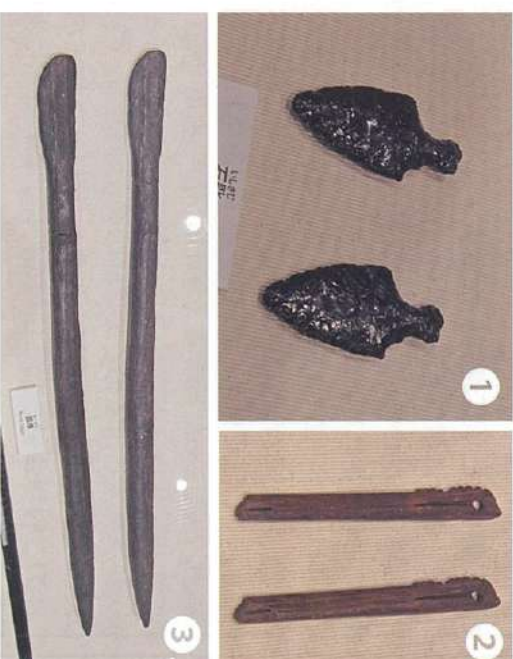
三内丸山遺跡センターで 5 月 30 日(日)まで、企画展「イミテーション・ワールド」が開かれています。縄文人が動物の姿や足をかたどった土器、実用品の 10 分の 1(ほどのミニチュア土器、石と粘土など別々の素材で作られた同じ形・文様の道具など、「模倣・まね」をテーマに出土品を組み合わせた展示です。

企画展で特に、会場の最後にある、本物の出土品と複製品を 10 セット並べたコーナーが人気を集めています。

複製品は 1990 年代後半、三内丸山遺跡が脚光を浴び始めた時期に多く製作されたようです。合成樹脂などの素材で、形や色合いはもちろん、質感、独特の光沢なども、本物に極めて忠実に作られています。

①は黒曜石の石匙(石のナイフ)、②は骨製の装飾品、③は掘棒、④は板状土偶、⑤は鉢形の土器です。実物を見たとで、よくよく比べてみると、微妙な光り方や傷の付き方、土器に含まれる鉱物の光、さらには整理作

業に注記された文字などで、本物を何とか区別できますが、「研究者でも間違える出来映えの複製ち」と、担当の文化財保護主査・高橋哲さん。企画展は通常の観覧料だけで見学できます。



「アレコ」全 4 幕 展示延長 青森県立美術館 6月19・20日ドラマイゼイヴ

青森県立美術館を象徴する空間「アレコホール」に、画家アレコ・シヤガールが制作したバレエ「アレコ」の背景画全 4 幕が展示されています。同美術館が第 1・2・4 幕を収蔵、残る第 3 幕(写真右の中央)は、米フイラデルフィア美術館が収蔵し、同美術館の改修工事に伴って 2017 年 4 月から、青森県立美術館へ長期貸与されています。当初は 2021 年 3 月までだった貸与期限が、このほど 2 年間延長されました。

全 4 幕の展示中、バレエのストーリーなどを紹介する約 15 分間の鑑賞プログラムを上映しています。



青森県立美術館は 6 月 9 日(土)、10 日(日)午後 2 時から、ドラマイゼイヴ公演「あらしのよるに」を開催します。「食う者・食われる者」という関係を超えた、オオカミとヤギの友情を描く絵本「あらしのよるに」(作・きむらゆういち、絵・あべ弘士、講談社)シリーズを朗読します。構成・演出は長谷川孝治さんです。料金は一般 800 円、高校生以下は 300 円、購入には別に手数料がかかります。詳細は県立美術館ホームページ(www.aomori-museum.jp)をご覧ください(下の QR コードからもリンクしています)。

見学時間 9:00～17:00(入場は閉館の30分前まで)
休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日～1月1日
観覧料 一般 410円(380円)/高校・大学生等 200円(160円)/中学生以下 無料
※()内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金、展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)



三内丸山遺跡センター



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)
休館日 毎月第2、第4月曜日(祝日の場合は翌日)
※企画展開催時、展示替え等により変更する場合があります。
観覧料 一般 510円(410円)/高校・大学生 300円(240円)/小学生・中学生 100円(80円)
※()内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金、展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約 20 分・300 円、タクシー(南口) 約 10 分・1,000 円前後、徒歩約 30 分
⇒ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約 10 分・300 円、タクシー(南口) 約 12 分・1,200 円前後、徒歩約 40 分

Facebook ページ Instagram アカウント

< ネット情報 >

Facebook ページと Instagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森西高校ホームページ(<http://www.aomorinishi-h.sasnet.jp/>)に掲載しています。いずれも、右側にの QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楡引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ

合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。
〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部 楡引素夫 電話 017-738-2001 内線 731

縄文と芸術 FB ページ Instagram 青森西高校 ホームページ